

編集後記

本号では、わが国も参加して進められている国際核融合実験炉ITER計画の理事会メンバーである、(独)日本原子力研究開発機構の常松特別研究員から示唆に富む巻頭言を頂きました。さらに、当財団の業務に関連の深い高度情報科学技術分野でのご研究等、専門家のご協力を頂き、刊行の運びになりましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、1月23日は、「いいふみ」の語呂合わせ及び1・2・3という覚えやすさで電子メールの日とされています。電子メールは、電話と違って互いの時間を合わせる必要がなく、複数の相手に同じ文面を送るのも容易、記録が残るので誤解も生じることなく、過去のやり取りの検索も容易など多くの長を有し、今や世界中の官公庁や企

業、家庭、個人間での情報交換のメディアとして広く使われています。本誌の発行においても原稿の収集、印刷の依頼や校正などを、本文だけでなく図表や写真等を含めて執筆者や印刷業者と直接電子メール添付でやりとりできる利便性を享受しています。

この便利で重要なメディアが使われ始めてから38年しかたっていないのに、近時、「電子メール時代の終焉」といった言葉が現れてきたのには驚きます。どんどん進化する携帯電話やモバイル機器の普及などの影響も大きいのかも知れません。これからの便利で豊かな、いわゆる「電子ライフ」時代の到来を期待したいと思います。

(山岸)